

供覽

事務次官

軍務局

人事局

法務局

艦政本部

1007

二三

昭和二年八月二十七日舞鶴艦長門

聯合艦隊司令長官

海軍大臣殿

神通藏及那珂葦衝突事件報告

別冊添

海軍

田結

一通

終

係

穂積

福

私

山

阿

阿

阿

阿

西

西

西

神通嶽及那珂葦衝突事件報告

一事件前情况

昭和二年八月二十四日聯合艦隊ハ別紙第一及第二計劃ニ依リ第八
 回基本演習ヲ實施ス是ヨリ先キ第八回基本演習(第三戰隊第
 一水雷戰隊夜間應用戰術射撃)ニ於テ第三及第六驅逐隊ハ射撃ノ
 機會ヲ得ル能ハリシヲ以テ之ヲ本演習ニ於ケル乙軍ニ加ヘ甲軍ノ後衛
 第三戰隊及竜田ヲ加古型ト仮想スルニ改メ二十三日午後三時信號齊
 令セリ

甲軍ノ行動

甲軍命令別紙第三ノ如シ

二十四日午後七時三十分甲軍部隊ハ本職之ヲ率テ美保關齊午後十時
 第一戰隊先頭ヲ以テ所定齊動点(地藏崎ノ零度十五度)ニ達シ左ノ
 隊形ニ在リ

↑18 1000 ↑48 1000 ↑38 (一由) 1000 ↑68 (一由) 眞針路七。度連力十二節

天候 曇 風向東 風力三乃至四 氣温二七度 氣壓七六四波
浪方向東稍高シ 視界稍良(約六〇〇米)

午後十時演習開始各隊ハ令無クシテ解列、長門陸奥ハ本職之ヲ
率井眞針路三五度ニ變針漸次増進シテ第一戰連(十六節)トナシ十
一時一分眞針路五。度ニ變針令五分第二戰連(十節)トナス

金剛比叡及伊勢日向ハ第二艦隊司令長官之ヲ率井甲軍命令所定
ノ如ク行動シ伊勢日向午後十時四十分金剛隊ノ後方四哩ニ位置續航ス
(當時眞針路六五度)

後衛タル鬼怒阿武隈(第三戰隊)及竜田由良(第六戰隊)第一水雷戰隊司令
官之ヲ率ツハ午後十時各所定ノ配備ニ就ク如ク行動ヲ起ス

乙軍ノ行動

乙軍命令別紙第四第五及第六ノ如シ

午後十時演習開始ト同時ニ各隊美保南榮漸次増速ニテ正子所定索敵配備地矣ニ向テ直航ス左翼隊ハ神通那珂ハ神通艦長之ヲ率井地蔵崎燈台ヲ西四漣ニ見テ北ニ五度東ニ定針十時四十八分第三戰連(三八節)ト支

俟テ六第三七驅逐隊ハ午後十時美保南榮同ニ十分灣口ヲ北六度東ニ定針所定配備地点ニ向テ十時三十九分北四〇度東ニ變針十時三十二分第四戰連(三十九節)トナシ北三七度東ニ變針午後概北東方ニ航進セリ

二、事件ノ經過及處置

諸報告(長門別紙第七、伊勢別紙第八、神通別紙第九、那珂別紙第一、第三六驅逐隊司令別紙第一、第三七驅逐隊司令別紙第一、華駆逐艦長別紙第一三、ノ各報告參照)ヲ綜合スルコト左ノ如シ

午後十時六分神通(那珂續行)ハ依然北ニ五度東ノ針路ヲ以テ航進中

左三〇度ニ伊勢型ラシヤ艦影ニ隻ヲ認メ(伊勢(日向航行)モ亦十一時七分
右一〇〇度巨島約六〇〇〇米ニ駆逐艦ヲシヤ艦影トシテ神通那珂ヲ
認メ居レリ)

之ニ接近接士時十分頃ヨリ伊勢隊ノ照射砲撃ヲ受ケ最短巨島約
三二〇米トナルニ及ヒ漸次避退自的ヲ以テ十一時十分北東ニ変針第一警戒
(二十節)トナシ十二分東北東ニ変針ス

此時左舷艦尾方向ヨリ甲軍後衛ノ一艦ヨリ照射ヲ受ケ神通ハ伊勢
ニ對シ及照シ那珂ハ探照燈ヲ以テ友軍敵情ヲ通報シ次テ神通ハ航
海灯ヲ点シ南東ニ変針(伊勢自十一時十五分第二警戒(十八節)
トナシ左四五度緊急一斉回頭一七度分照射ヲ止メ左四五度ニ
斉回頭)

十一時十六分敵後尾ニ触接スルノ目的ヲ以テ兩舷灯ヲ消シ第三警戒
(三十八節)ニ増速面舵ニ転舵中艦首南附近ノ頃前方近巨島

(後方より照射スル探照灯光ニ眩惑セラルシ精確ナル巨艦不明)ニ左ヨ
リ右ニ航過スル無灯ノ駆逐艦ヲ認メ航海灯ヲ点シ取り舵一杯ニテ
同十九分ノヲ避ケタルセテ更ニ左ヨリ右ニ航過スル無灯ノ駆逐艦
ヲ認メ両舷機停止後進令達ニテ避ケントセシセ間ニ令ス遂ニ同
ニテ分嶺ノ右舷舷側(艦橋ト第一煙突間)ニ衝突嶺同ニ分
艦首ヲ上方ニシテ沈没セリ

嶺沈没位置地蔵崎ノ北ニ九度東ニ。埋セ五

那珂終始神通ニ續行シテアリシカ十時ニ分回頭中依然神
通カ火煙ニ包モラルヲ見之ト衝突ヲ避クル爲直ニ取舵一杯
機械停止次テ後進令達ヲ令シ航海灯ヲ出シ尚神
通ノ遭難ト認メ其ノ上方ヲ照射セシメテ、漸次左ニ回頭
シ速力減退シテ、アル際急ニ右舷艦首約四點約二〇米
ニ於テ直角方面ニ右ヨリ左ニ横切ラントスル駆逐艦ヲ

認メタリ當時那珂ハ取舵一杯ニテ左回頭中ナリシヲ以
 テ如何ナル方法ヲ講スルモ畢竟最觸衝ヲ免ルヘカラル狀況
 ナルヲ直感シ其ノ後幾分ニテモ損害ヲ減少センカ爲面
 舵一杯ヲ令シタルモ遂ニ十時三十分三秒那珂艦首ノ
 ノ艦尾ニ接觸スルノ止ムナキに至レリ其ノ位置地蔵崎灯台
 ノ北三十九度東二二五哩ナリ
 第三六駆逐隊ハ十時九分左舷三十五度附近ニ敵主力
 ラシキモノヲ認メ同十分北三。度東ニ変針當時左前方
 ニアリシ神通、那珂ハ敵後衛次ヲ敵主力ヨリ照射砲
 撃ヲ受ケ同時ニ神通、那珂モ反照スルヲ認メシ爲北
 四。度東ニ変針更ニ右ニ転舵シテ前方ニ進出セント欲
 シタルモ神通隊カ其ノ前程ニ接近シ来リタルヲ認メ止ムヲ得
 ス左ニ転舵那珂ハ後方ヲ通過セリ

後續隊タル第三七駆逐隊ハ十時十二分北ニ。度西照一
射砲撃ヲ次ヲ探照灯信號「伊勢型見ユ」ヲ認メ北五。度
東ニ変針 第三十六駆逐隊ノ右側斜後ニ出ス（同隊ノ横
巨約五。米縦巨約三。米）同時左舷艦首約四。三。〇。
米ニ約北東ノ針路ヲ以テ敵後衛ト照射砲撃ヲ交フ、
航走スル神通型二隻ヲ認ム

同十四分北三。度東ニ変針次ヲ更ニ左ニ回頭 第三十六
駆逐隊ノ後尾ニ向首ス 其時神通型二隻針路
約東ニテノ針路ヲ横過スル如ク行動シ漸次同隊ノ艦
首ヲ航過シ其ノ後方ニ第三十六駆逐隊ノ同方向ニ回頭
シツ、アルヲ認ム

同十一時十六分同隊ノ右舷艦首約一点附近ニ達セル神
通型ヨリ其ノ南東方加古型ヲ短時間照射セルヲ認ム

同十七分三十分、右舷艦首約五點六。米附近に僅少
 ノ内角ヲ神通型右舷艦打刃出シ及航シ来リタルモ神
 通型カ其ノ針路ヲ保持スルトキハ先ツ本隊ノ後尾ヲ
 無事通過スルモト思ヒ居リシカ、其ノ右正横後ヲ過ク
 ル頃急ニ本隊ニ接近隊列ヲ横切リ認メ次ヲニ番艦嶺
 ハ神通ト衝突猛火ニ包メレタルヲ以テ其ノ直ニ停止
 取飛一杯次ヲ右前進急連航海灯ヲ点出シ現場
 ヲ照射シテ救助ニ向フ暫クノ後嶺沈没位置ノ南
 方約千米ニ三番艦等ヲ那珂（當時不明）ト衝突
 右舷約三。度傾斜シ居ルヲ認ム
 三番艦等ハ神通隊カ右方ヨリ反転シ来リタルヲ
 認メテ、前續艦ニ續行航神通隊ノ左舷艦灯ヲ
 認メ刻々急速度ヲ以テ接近シテ、アリ 危険ヲ感セ

ミモ左右何レノ面辟モ過早ナル時ニ司令駆逐艦ノ
回避方向ノ如何ニヨリテ最モ危険ト認メ自重ス
但シ艀灯ヲ出ス

菱ハ神通隊ノ前路ヲ横過シ其ノ終直進スルヲ
看取セシニ依リ直ニ面舵ニ回頭（此ノ時艀ト神通
トハ何レカ先ニ横過スルヤ見當ワカス何レモ直進スル
如ク見えハタルニ依リ直ニ時間隔キアルモノナラント推察
シ居リタリ）當時~~漸ク~~遠方ニ那珂ヲ認ム（無灯）
前續艦艀衝突當時ハ菱ハ既ニ相當距離隔シ
且ツ急速度ノ回頭ヲナシツ、アリ 那珂ヲ認メタルモ
充分回避ノ巨量アリト信シタリ 然ルニ回頭中
那珂ハ艦尾方向ニ交ラス常ニ正横ヨリ少し後方
ニ向首ニ居ルヲ認メ 那珂ハ取舵ニ転舵シツ、ハ

海 軍

アリシモノ、如ク感セリ

ム
尔後回頭ヲ續ケフ、始メテ緑色航灯ヲ認

當時葦ノ艇首方位約南
如斯ニシテ近接

シ右舷艇尾ヨリ衝突數手ヲ受ク

損傷各艇ノ尔後ノ処置ハ各艇報告ノ趣

三、事件後ノ取置

午後十一時五十分神道ヨリ、吾衛突ス救助ヲ要ス、
無線報ヲ告グ又ケ直ニ決テ終結シ令メ之ヨリ先遣難
地矣、附近シテ飛セ六駆逐隊、第五戰隊及伊勢力
日向ハ急ニ見テ直ニ独断救援ニ赴キツカリ午余ノ
諸隊モ亦演習終結後現場ニ急行シツルヲ認メ
現場ハ非常ニ混雜シ却テ危險ヲ醸ス、虞ハシク取
リ敢ヘス第三戰隊及伊勢力ヲ現場ニ急行セシメ必要以外ノ
艦船ハ近寄ラン様令メ次々各艦隊ハ演習ヲ取り
止メ舞臺ニ回航スヤニ曰ク今スガ時遭難地附近ニ在リテ
極力短歌等ヲ以テ救難ニ從事シツツアリシ艦艇左如シ
伊勢、加古、古鷹、鬼怒、阿武隈、由良、龍田、
第二六、第二七駆逐隊

ニシテ神通那珂ハ自艦應急作業ニ從事スル一方救
 助艇ヲ却シ極力溺者救助ニ努メツツアリ
 第一、第四戰隊ハ翌朝午二時頃迄現場附近正リ
 救助作業ヲ支援ス
 次テ第四、第五戰隊ハ神通及那珂ノ應急作業ヲ援
 助スル第三戰隊及伊勢ハ暮ノ援助ヲ為シ、
 雷戰隊ハ第三戰隊ヲ現場ニ殘シ極力搜索ニ從事セ
 レメ余ノ各隊(艦)ハ舞鶴ニ向航セリ
 二十六日以後ハ第一水雷戰隊ノ全力及艦隊航空機
 ヲ以テ極力行衛不明者ノ搜索ニ努メツツアルニ漂流
 物若干ヲ拾得シム外未タ何等得ン所ナシ
 那珂ハ二十五日午前二時頃防水區劃神強工事
 及防水帯出し方終了自方航行ニ着手シ、
 六機

タル等報告に接し比敵及古鷹の護衛に舞鶴に回
 航せし二十五日午後五時無事到着セリ
 舞ハ三番砲より後方ハ切断シタルモ機械室ヨリ剛力ハ
 カ目星ノ浸水スルニシテ排水シツク或航可能ト認ムル
 報告に接し阿武隈ヨリ或航伊勢及栗護衛下ニ
 舞鶴に回航セシ二十五日午前八時
 半無事舞鶴着
 神通ハ損傷最甚シ二十五日午前八時は、防水補強
 作業終了シ全副ハ之ヲ艦尾ニ舞鶴に回航カ古
 之ヲ護衛シ二十六日午前九時無事舞鶴着
 第一戦隊(伊勢)ハ午前八時廿分又第三戦隊(阿武
 隈)ハ日没時何モ現地矣舞鶴に回航ス
 四、損傷各艦状況 (見取図及写真参照)

(一) 神通

(イ) 船体ノ損傷 (損傷箇所見取図参照)

一番高角砲 (三十九番砲) より前方ニ上甲板以下ノ
諸区劃ノ全部ノ破損流失ニ其後部ニ至リ上甲
板以下ニ至ル冷却機室、八糧高角砲小銃彈藥
庫等隔壁破損ニ至リ何モ浸水ス

(ロ) 人員ノ死傷

挫傷ニ挫創ニ熱傷四以上ノ内挫傷一名稍重
傷外他何モ輕微、死者行衛不明無シ

(ハ) 錨鎖、右舷錨鎖水際より切損シ左舷錨鎖ハ
海底膠着シ揚錨機ノ力量ニテ如何モ引
能ラズ又曳航ニ支障ヲ生セシヲ以テ之ヲ瓦新銃
接機ヲ以テ切斷海中ニ投棄セリ

二、那珂

一區水線下ツリミグタノ全部破損 鈎鎖庫一部
破損浸水十九番ロム障壁ニ止マル右舷外軸推
進機翼破損人員異状ナシ

三、暮井

三番砲ノ後方より切断跡形ナシ 下支兵ニ先行衛不
明一名重傷死セ

四、巖

沈没 確至要上ナ名ト支兵ハ先行衛不明

那珂ハ二十五日午後十時入渠應急修理ニ着手中約一週
間ヲ要スル見込 神通ハ因下陸岸繋留中 那珂出渠
ノ後入渠應急修理ニ着手 暮井ハ二十六日入渠

1023

驅逐
葦艦

殉職者
名簿

驅逐艦被難者名簿

(行衛不明者)

(○特殊進級者)

艦長

戦闘要員

官等氏名

○中佐五十嵐 惠

大尉佐々木 茂夫

○大尉新田 義熊

中尉宮地 道哉

○大尉内 俊範

○機中佐福田 秀穂

機中尉前田 暉治

○特中尉藤田 利一

○機特中尉増岡 倉平

兵曹長古藤 一令

機曹長平川 近次

○	○		○	○	○	○		○	○		○	○
"	"	"	"	"	三	"	"	"	"	二	"	兵
					曹					曹		長
松	村	奈	池	德	小	藤	松	荷	高	小	鶴	浅
元	田	良	田	留	路	田	井	宮	嶋	屋	田	野
速	末	崎	正	九	正	清	萬	五	順	重	勇	若
雄	男	路	行	郎	彦	二	吉	郎	治	盛	吉	松

一 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 三
 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

水吉村逸郎 古閑利次郎 原之園政義 増田幸八 富永喜重 高田繁男 本田智綱 中村徳次郎 山本 山内 猪股良作 園田太郎 曹野村進

○	○				○	○	○	○
〃	一	〃	〃	三	〃	〃	二	〃
	機曹			水			水	
真	機曹	岡	和	山	大	有	林	森
野	牧	山	田	口	崎	川	平	山
巳	五	正	稻	貞	年	國	八	伍
久	郎	義	吉	樹	雄	良	郎	市
馬								

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	三	リ	リ	リ	二
							機 曹				機 曹
永	竹	高	河	中	小	西	須	猪	大	今	日
田	岡	橋	内	尾	川	元	崎	熊	津	西	高
綱	信	好	亀		庄	清		盛	次		慶
盛	次	郎	一	守	市	次	學	一	雄	一	三
											上
											田
											克
											巳

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〃 二 〃 〃 〃 〃 〃 一 〃 〃 〃 三

田	徳	森	濱	飯	小	若	江	黒	松	小	山	古
代	永	内	口	村	川	松	川	葛	浦	川	本	川
金		傳	英	三	弥	豊	末	野	鹿	真	仙	三
次	登	吾	延	次	六	成	吉	武	象	士	次	郎
								二		藏	郎	郎

○		○	○			○	○	○	○	○	○
〃	三	一	一	〃	〃	三	〃	〃	〃	〃	二
	主	看	船			機					機
芳	曹	石	林	西	緒	矢	中	妹	佐	坂	亀
竹	遠	橋		田	方	野	原	尾	竹	本	岡
益	重	三	悦	令	勝		信	重	道		年
喜	治	二	藏	吉	喜	猛	雄	美	男	實	春
											則

生存者

雪光



九 二 一 三
二 主
名 主 主 骨

曾新名卷太郎
主富田徳藏
主鶴田清

曹海邊正

中野富作

曹西元市二

曹山口光雄

水峯下政雄

童疔

田中 秋海

品川勇太郎

侵屋秀志

小畑 佐次郎

生存者

生存者二一名

重志 輕志

三	二	リ	リ	リ	リ	リ	リ	三	?	二	一
機	機							水		水	水
曹	曹	岩	中	小	高	豊	中	水	古	後	文
坂	兒	崎	小路	谷	橋	田	野	西	賀	藤	谷
田	倉	政		良	久	四	常	崎	栄	幹	
正	芳	雄	政	明	人	郎	太	亀	助	喜	清
義	男							太郎			

驅逐艦葦殉職者名簿（行衛不明）

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三		二	一	三	二	一	二	一	〇	〇
水廣川徳太郎	實松栄次	宮下朝光	水岡田吉太郎	津留正三	水森本喜二	山口義雄	曹木村廣喜	角嘉左衛門	曹福永源吉	曹定村高政
										兵曹長甲斐次郎

○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二	一	一	二	〃	一	〃	〃	三	〃	一	一
主	主	船	機		機			機		機	水
曹	曹	曹	一	白	佐	飯	百	曹	野	曹	江
永	山	松	瀬	石	藤	塚	留	谷	田	草	川
松	川	下	忠	龜	國	成	干	口	伊	場	重
		壯	一	太	人	俊	年	要	作	茂	作
續	茂	治		郎				八	藏	雄	

計
二
八
名

①

二 〃 一

主		主
松	友	丸
江	松	山
乙	儀	廣
彌	一	喜

1036



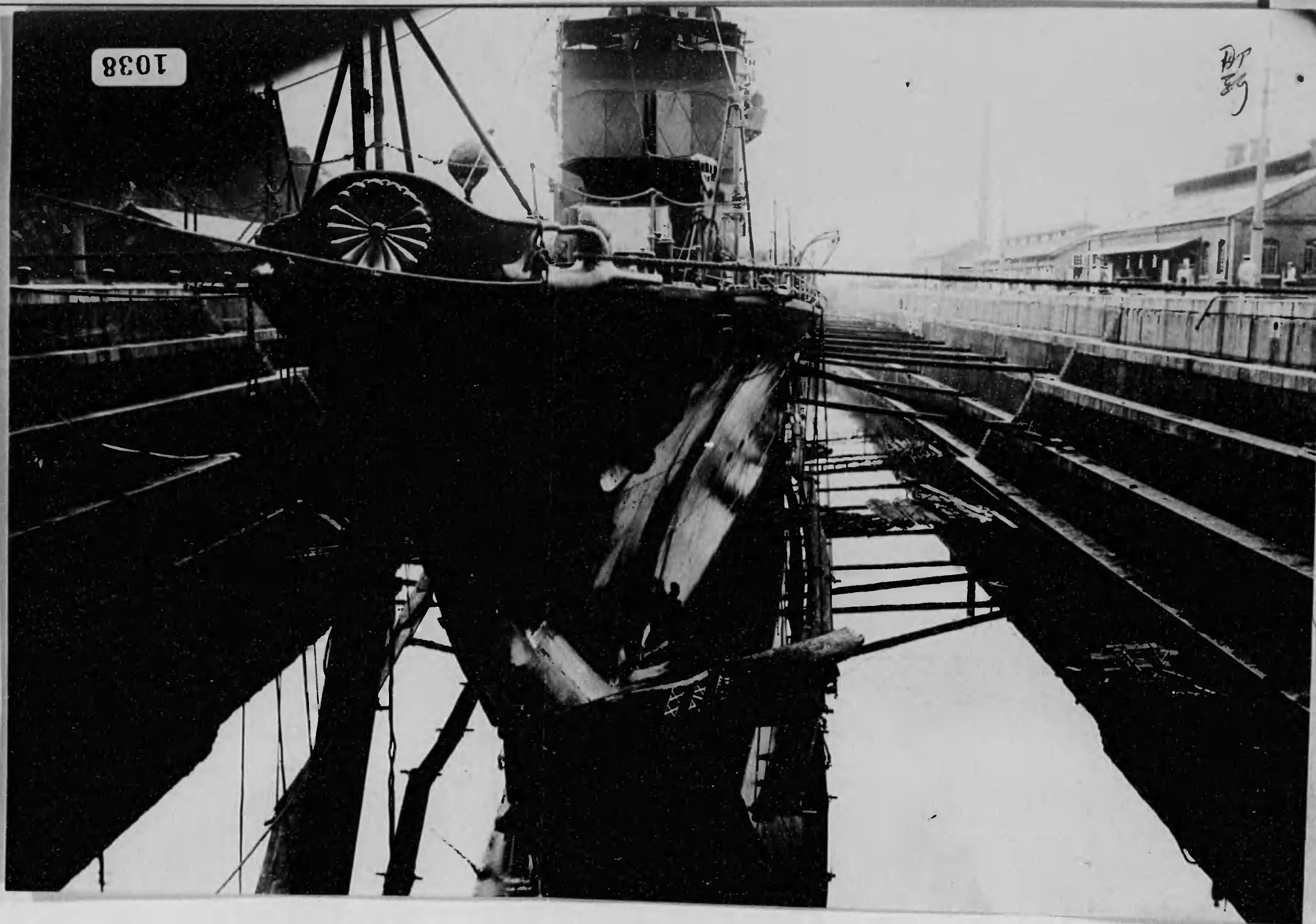
1037

那野



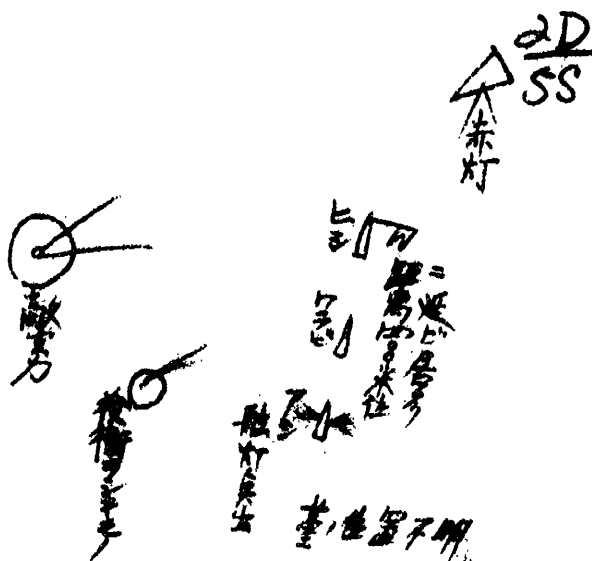
1038

DP
59



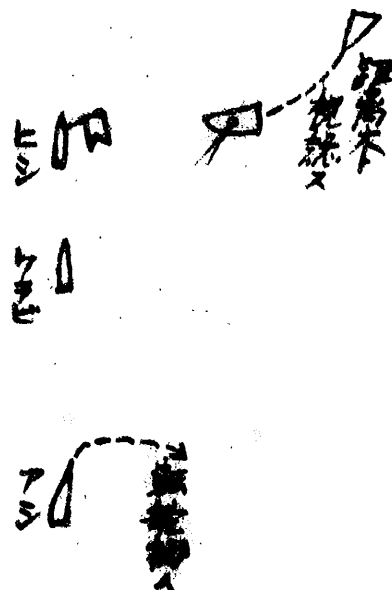
(3)

(2) ニリキ續キ先軀カ灯ヲ見刺々急遽
 山接近シツアリ危險ノ感ズ左右何
 レ回避モ過早ナル時ハ菱ノ回避方
 如何ニヨリテ最モ危險ト認メ自重ス
 但シ軀カ臭出ス



(4)

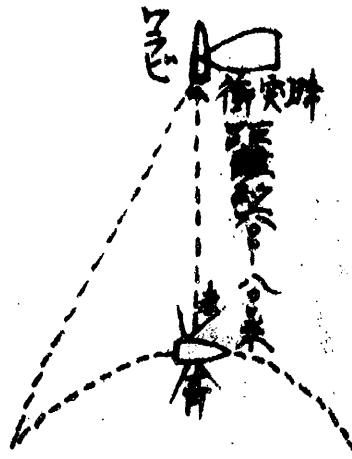
此路横道其後從前鐵路ヲ保
 持スル者取テモ直ニ面勢ハ次
 ガク以テ右面
 此時ハモト神道トハ何ヲ先ニ横道
 スルヤ見ダツカズ何ヲ先ニ直道
 見ダレニヨリ至ニ時ハ開キ下ニモ
 ナラント推察スルモ
 當時漸ク遠方ニ20SSノ敷設ヲ認ムル
 灯ナシ



敵船被り止

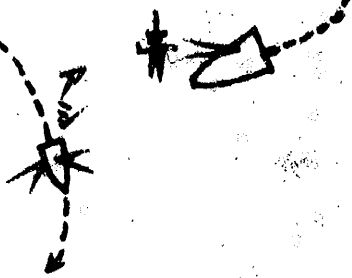
(5)

ワレに衝突當時ハ既ニ相當離レ
テ表向度ハ回頭ヲ為シテ
敵艦ヲ認メテ充分回避距離
ニアリト信シ居リ



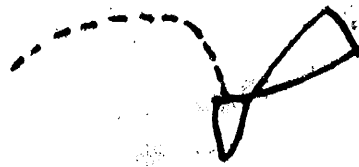
(6)

衝突後回頭ヲ續ケタル時(6)ノ如ク
勢ニテ初メ青色敵艦ヲ見タリ
當時約Sナリキ
衝突接近セテタル中少シク交角ア
リシヲ認メ衝突直前舵灰モ
命ジタリ



(5)ノ後回頭ヲ續ケ各々相手ハ艦尾
方ニ交ヘラズ常ニ正横ヨリ後方ニ
向首シ居リ
前後相見取舵ニ執ルシヨ
シモ力ヲ見ハレ

(7)



名ド連尾状況ヲ御覽之ニシテカ
機軸室ニ於テ御覧ノ損害凡シテナ
サシ由

備考
重機軸室ニ於テ本校生員談ニハ御覽ノ時刻ハ午後十一時
半ノナリ高ノ機軸室ノ精確ニ時刻計測セラル高ノ
者ノ時間差ハ知ルヲ得サルニ二三分位アリシモノ如

録

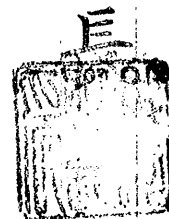
別紙分十

海軍

九四號

昭和二年八月二十六日舞鶴

那珂船



聯合艦隊參謀長殿

一軍艦那珂駆逐艦葦衝突状況報告
一軍艦那珂駆逐艦葦衝突状況明細書

一通 一通

右通達云

(別紙二通 添)
(別圖二部)

終

軍艦那珂駛逐艦葦衝突状況報告

昭和二年八月二十四日午後十時聯合艦隊第八回基本演習開始ト全時ニ美保灣出港神通ニ着續航シ午後十時十三分第一戰速(三〇節)トナシ全十時二十五分地藏崎灯台ヲ二百五度三・八哩見テ北二十五度東ニ定針全十時五十分第一戰速(二八節)トナシ航行中十時五十三分至リ左舷約半度ニ至リ伊勢型ラキニ隻ヲ認メシカ暫クスル中神通ハ遠方見ノ信標ヲナセリ全十時十分第一戰速(二〇節)トナシ漸次右ニ変針ス此ノ時左舷艦尾方向ヨリ敵後衛ニ照射セラレ間モナク左舷正横附近ヨリ伊勢型ニ照射砲撃セラル(此ノ頃測巨三千三百米)神通ハ伊勢型ニ対シ反照ス本艦ハ探照灯ヲ以テ味方ニ対シ敵ノ所在ヲ信号ス十時十五分神通第三戰速トナシ漸次右ニ回鑿進ス十時十七分頃ヨリ更ニ右轉航本艦ハ終

始之ニ續航セリ十一時十九分回頭中俄然神通が火煙ニ包マレ
 タルヲ見神通ト衝突ヲ避クル爲メ直ニ取舵一杯機械停止
 續テ後進全速ヲ令シ航海灯ヲ出ス神通ノ遭難ト見テ其ノ
 上方ヲ照射セシム本艦ハ漸次左面頭ニ速力減退シツアル
 際十一時二十分急ニ右舷艦首約四呎約二百米ニ直角方向
 右ヨリ左ニ横切ラントスル駆逐艇ヲ認メタリ當時本艦ハ取舵一杯
 ニテ左回頭中ナリテ如何ナル方法ヲ講スルモ最早衝突ヲ
 免ルヘカサル状況ナルヲ直感セリ其ノ後幾分ニテモ損害ヲ減少
 センカ爲メ面舵一杯ヲ令シタルモ遂ニ十一時二十分三秒本艦ハ首
 ヲ葦ノ艦尾ニ接触スルノ止ムナキニ至レリ其ノ位置地蔵崎灯
 台ノ北三十九度東二二・五哩ナリ
 接触後本艦ハ直ニ防水部署ニ就カレメ應急作業ニ從事
 スルト今時ニ探照灯ヲ以テ各艦ニ神通及本艦ハ各駆逐艇ト

衝突シ救助ヲ要スルニ目通報シ短艇ヲ却シ其ノ救難作業ニ従
事セリ

二十五日午前二時四十分ニ至リ防水区劃補強工事及防水幕出
シ方ヲ終了自カ航行ニ差支ナキヲ確メ自カニテ舞鶴ニ廻航ノ
途ニ就ケリ

終

海軍

軍艦那珂驅逐艦葦ト衝突状況明細書

一、衝突時刻 昭和二年八月廿四日午後七時三十分三秒

二、場所 地蔵崎燈台、北三十九度東二十六五哩

三、對手艦名 葦

四、葦驅逐艦長 海軍少佐須賀彦次郎

一、方向 東、風力五

二、天候 曇天、晴夜

三、海上模様 稍荒

四、潮流及流速 不明

五、視認距離 約五、六千米

三、本艦航行位置 美保湾

二、目的艦地 第八回基本演習中

三、針路 那通二號航面航二回頭中

母

軍

速力

二十八節

灯光

魚灯航行但シテ通カ火焰ニ包マレタリ見ルヤ探
照燈及航海燈ヲ出ス

6. 機械部其他状況

第三速(二十八節)ニテテ通ニ航行 石田頭中神

通俄然トシテ火焰ニ包マレタルヲ認メタルヲ以テ取航

一杯後進全速トシ航海燈ヲ出シテ通ヲ照射

セシカ為メ探照燈ヲ照シタリ 六時三十分右舷艦

首至近ノ巨艦ニ取逐艦一隻本艦ノ艦首ヲ左ニ

航過セントスルヲ認メタルモ時既ニ触衝ノ避クヘカキ

状況ニ陥リ其後幾分ニテモ損害ヲ輕減セムカ為メ

面航一杯ヲ命シタルモ遂ニ十一時三十分三十秒

暮、艦尾ト触衝セリ

四 始メテ對手艦ヲ発見シタル時刻

午後六時二十分頃右舷約四角約二百米

五 衝突前ニ於ケル對手艦ノ状況

ハ 對手艦ノ速力針路等

精確ヲ期シ難キモ高速ヲ以テ本艦ノ右舷ヨリ

約直角ニ左舷ニ通過ス

六 衝突ヲ避クル爲メ施シタル処置

取舵一杯後速全速ニテ那通ヲ回避中ニモテ

最早回避ノ余地ナカリシモ我分ニテモ損害ヲ減

少セシム爲メ面舵一杯ヲ取リタリ衝突ノ際ハ最

早速力ハ相當減シ居レリ

七 始メテ相触レタル部分

本艦ノ艦首ト葦ノ艦尾

葦

葦

海

目

2. 其後、状況、衝突後直ニ駆逐艦ト離レ本艦ハ防水打

習ニ就キ防水ニ従事且ツ短艇ヲ却シ棄救

助ニ赴ク

ハ衝突後施シタル処置

直ニ防水割壁ノ補強作業ヲモシ防水幕ヲ

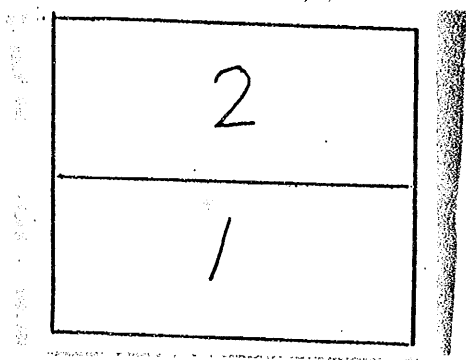
展張シ清水庫内ニ満水ス

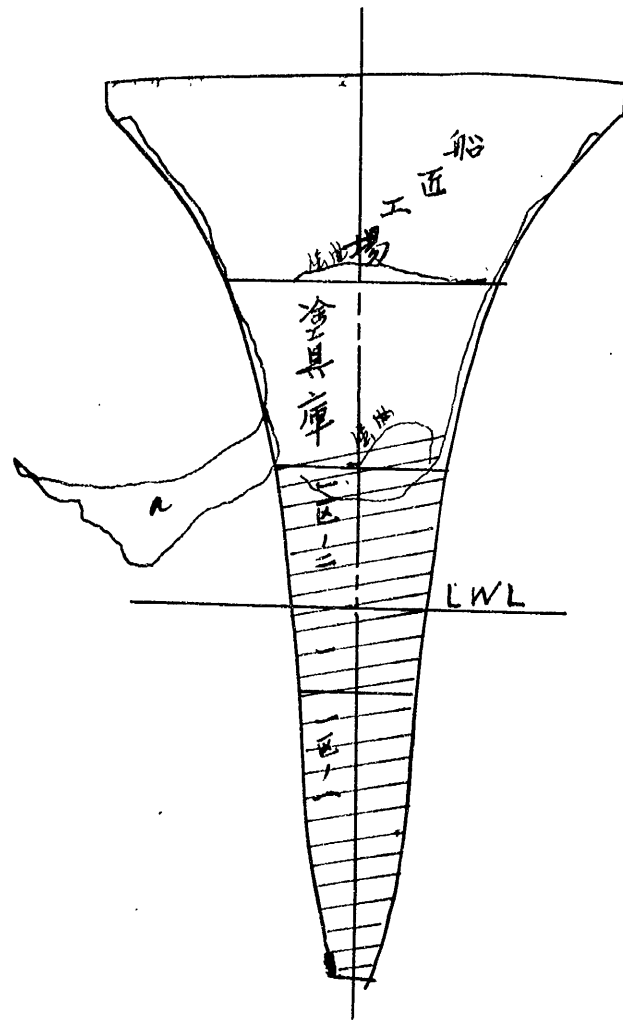
九. 損害状況 別圖、如シ

(別圖添付)

終

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 12 年 6 月 1 日 主務者又は 撮影立会者 三 浦 悟 	



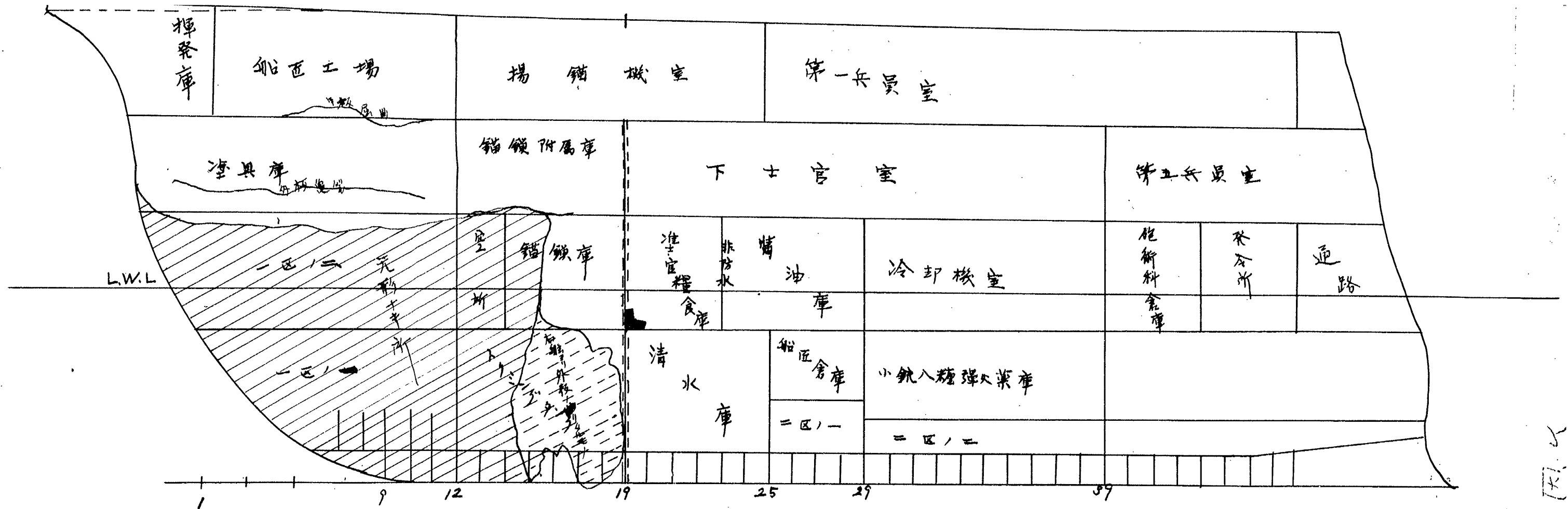
那珂損所畧圖 (縮尺 八分一吋 一呎トス)

側面

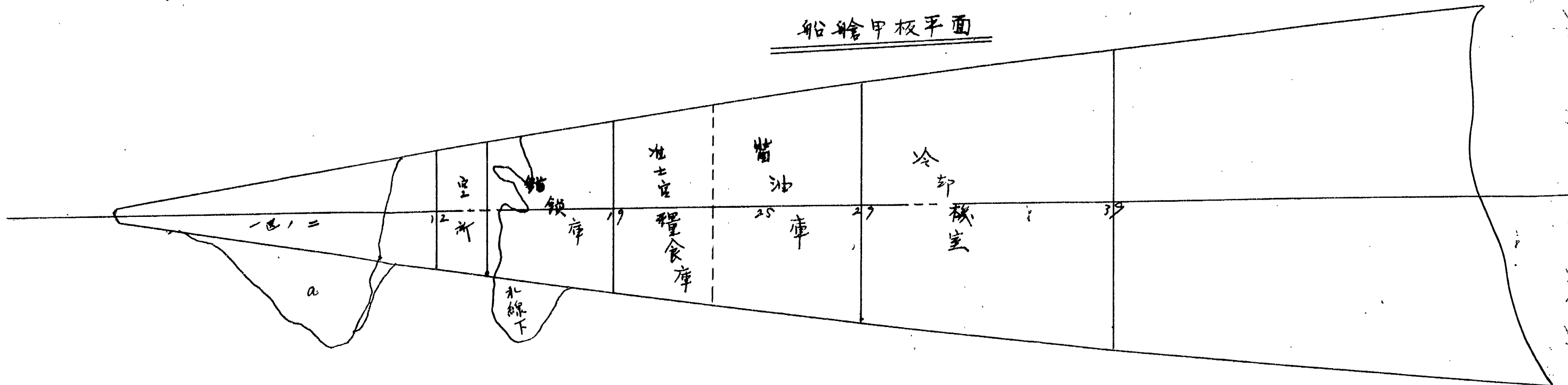
九龍
リ
見
タ
ル
モ

一、赤線ハ破損ノ所示ス
二、青点線ノ位置ニ防水



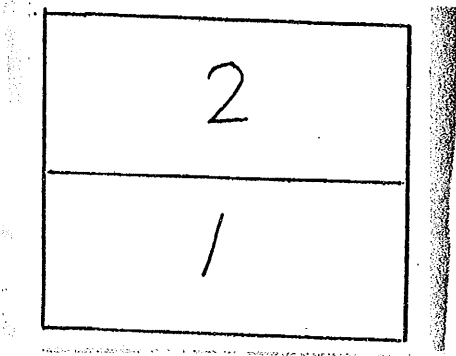


船倉甲板平面



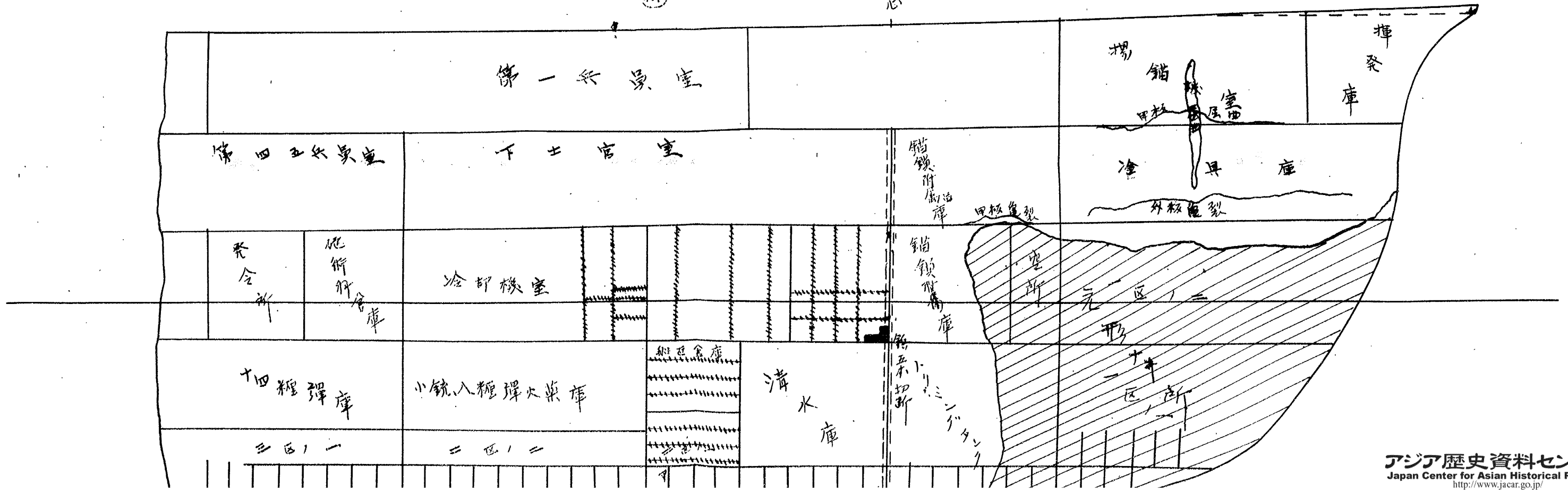
1051

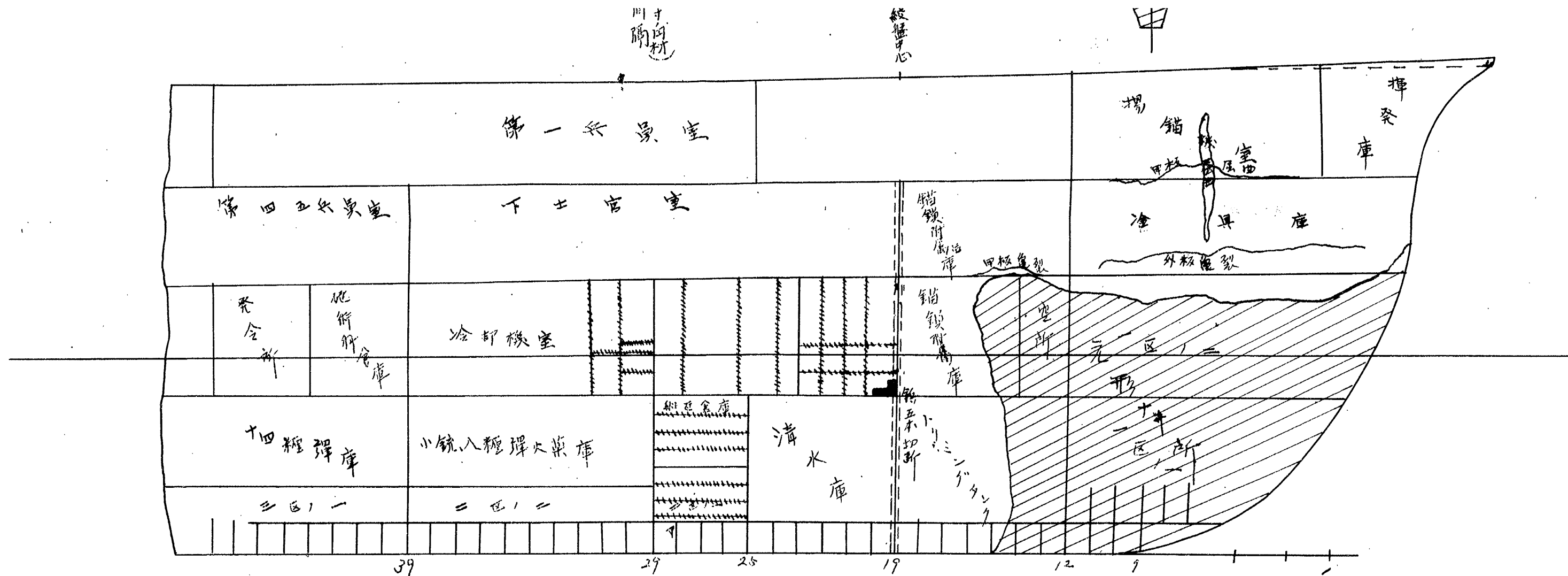
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 12 年 6 月 1 日 主務者又は 撮影立会者 三 浦 悟 	

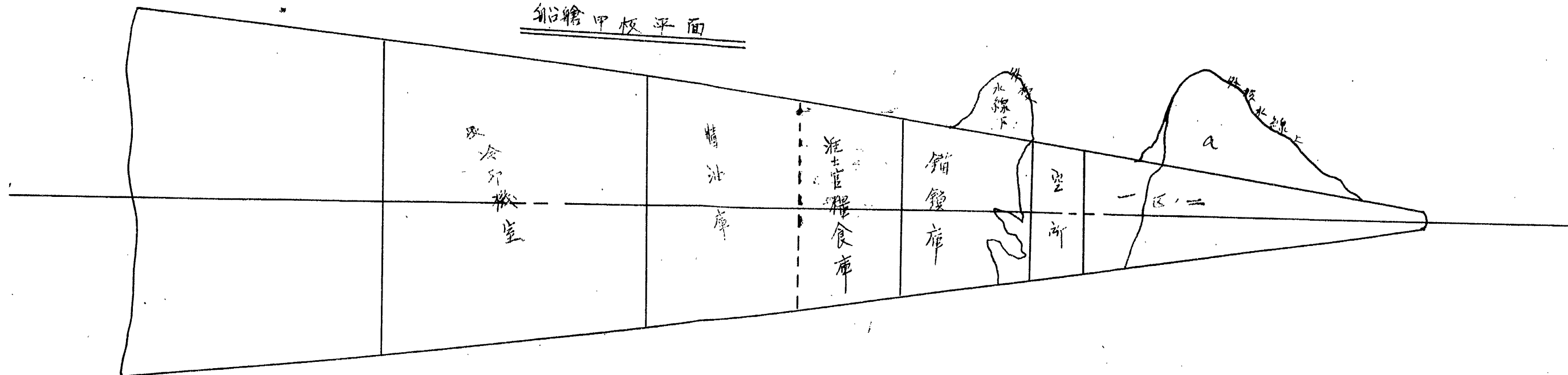
右能ヨリ異名
側面

一、赤線ハ破損ナシヲ示ス
二、青魚鱗ノ位置ニテ防水
三、應急補強材（）
四、取周隙





船倉甲板平面



軍務局

軍艦神通及駆逐艦嶺衛突ニ関スル事實
明細書

一、衛突迄ノ状況（附圖参照）

軍艦神通ハ昭和二年八月二十四日聯合艦隊第八回
基本演習ニ参加シ乙軍第五戰隊第二小隊先頭
艦トシテ二番艦即珂ヲ率ヒ今日午後十時美保灣
錨地ヨリ出港間モナク第一戰隊二十節ニ増速針路
北六十九度東ニテ行進今十時三十分乙軍命令第
一號ノ索敵配備ニ就ク為メ地藏崎燈台ヲ西四哩
ニ見テ北二十五度東ニ變針今十時四十分第三戰隊
二十節ヲ令シ今十時同轉整定（地藏崎北三十九度
東十五哩七五）二十節ヲ以テ珂ト編隊航行中今
十一時六分航三十度ニ方位型ラレキ艦影ニ度ヲ認メ

